

1 事業名

「体験の風をおこそう」運動協賛事業

平成27年度教育事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」

2 趣旨(事業の目的)

ボランティアがチームを組んで事業の企画立案をすることで、社会を生き抜く力を磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。

3 期日及び参加者(国立岩手山青少年交流の家で活動する法人ボランティア)

回数	期日	参加者内訳		
		男性	女性	計
第一回	平成27年4月26日(日)	5名	11名	16名
第二回	平成27年5月16日(土)	3名	9名	12名
第三回	平成27年6月6日(土)～7日(日)	4名	10名	14名
第四回	平成27年8月22日(土)	3名	6名	9名
第五回	平成27年9月5日(土)	8名	14名	22名
第六回	平成27年10月31日(土)	10名	13名	23名
第七回	平成27年12月5日(土)	10名	14名	24名
第八回	平成28年3月12日(土)～13日(日)	12名	16名	28名
	総計	55名	93名	148名

4 内容

(1) 指導者

第一回「チームビルディングと組織キャンプ運営の心得①」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

第二回 子どもゆめ基金説明会

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝

第三回「チームビルディングと組織キャンプ運営の心得②」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

「体験活動と安全管理」

講師 国立那須甲子青少年自然の家 総務管理係 志賀 亮太 氏

第四回「組織キャンプ運営実践①－体験活動支援セミナー夏に向けて－」

第五回「組織キャンプ運営実践②－体験活動支援セミナー夏に向けて－」

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝

国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 鎌田 信浩

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 高橋 知也

第六回「上半期法人ボランティア活動中間報告会」

「組織キャンプ運営実践③－体験活動支援セミナー冬に向けて－」

第七回「組織キャンプ運営実践④－体験活動支援セミナー冬に向けて－」

国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 丹 康浩

国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 鎌田 信浩

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 高橋 知也

第八回「下半期法人ボランティア活動報告会」

「新年度へ向けたプロジェクトチームの発足」

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝

(2) 企画のポイント

「岩手山ボランティア育成ビジョン」をもとに、ボランティア育成の「継続」に着目した取組であった。事業の展開として、第一回目に発足したプロジェクトチームは、ボランティアコーディネーターをアドバイザーとして配置した。

第二回目以降は、子どもゆめ基金の獲得に係る説明会や安全管理スキルの講習会など、ボランティアが自主企画を行う上で必要となる知識・技能の習得を主眼とした。また、第四回～七回については、参加ボランティアの裾野を広げ、自主企画立案へ向けたトレーニングとしての教育事業「テンプルパークちゃれんじクラブ」における活動プログラムの企画立案体験を実施した。

第六回および第八回においては、本事業の取組を含めた、岩手山青少年交流の家の法人ボランティア全体の取組について発表の場を設けることで、プレゼンテーション能力の育成とともに、ボランティア個人の成果を全体で共有することのできる仕組みを構築した。加えて第8回では、次年度のプロジェクトチームを発足させることで、年度で途切れることのないボランティア育成の継続性を視野に入れた内容を盛り込んだ。

(3) 広報のポイント

第一回参加のメンバーは、前年度にボランティア活動意向調査において登録更新を希望した56名のうち、16名が参加した。その後の展開として、新規ボランティアを含めた初期メンバー以外のボランティアの参加も奨励することで、平成27年度の法人登録ボランティアの48%にあたる57名が、プロジェクト関連の取組に係った。

(4) 運営のポイント

職員と法人ボランティア同士の円滑な連携を図るために、クラウドサービスの一種であるDropboxを有効活用し、情報共有を図った。また、各プロジェクトチームにおいて、LINEを使用したグループを作成することで、企画立案における迅速な情報共有を図るとともに、グループに職員が加わることで、話し合いの進捗状況の確認や、インターネット活用におけるトラブル発生の予防に努めた。

Dropboxには、次年度以降の記録として、ミーティングの議事録や、交流の家への申請書等の記録をプロジェクトに関わるすべてのメンバーが共有できるよう工夫されており、次年度に繋がる資料の収集にも一役買っている。

また、事業のねらいである「社会を生き抜く力」の養成を踏まえ、各プロジェクトチームにおいては、施設の利用に際し、申込申請書類の提出や各種締切りについて、一般の研修支援事業団体に準じた扱いとすることで、計画性のない場当たりの取組とならないように、社会的スキルの育成にも目を向けた運営を心がけた。

5 プロジェクトチームの実施内容と取組結果

(1) TEAM 山「大自然を感じよう！ 登山プロジェクト」

メンバー：青木眸美(盛大4年)、有原悠里(盛大4年)、昆野航(盛大4年)、鈴木孔明(盛大4年)
荒関峻也(盛大3年)、和蛇田美穂(県立大4年)、加藤真奈美(盛大2年)

内容：岩手県最高峰である、岩手山の登山に挑戦するグループ。岩手県内の大学生を一般参加者として募集し、実施した。企画メンバーは、安全確保のために交流の家の職員研修を利用するなどして3回の実地踏査を行った。参加者は男性5名、女性15名の計20名。

実施日：8月24日(月)

(2) TEAM 無人島「無人島体験キャンプ」

メンバー：高橋諒(盛大4年)、田中照美(盛大2年)、佐々木藍(盛大2年)、玉山彩生(盛大2年)

内容：岩手県内の小学生を対象に、交流の家を擬似無人島に見立てた体験キャンプを企画。平成27年度子どもゆめ基金後期募集に応募し、採択された。2回に渡ってプレキャンプを実施し

たが、募集に対し、参加者数が10人を下回り、子どもゆめ基金交付の条件を満たすことができなかったため、事業自体は開催できなかった。

実施日：10月17日(土)～18日(日) ※当日は次年度に向けた反省会を実施

(3) TEAM 学生交流ダンスパーティー「ボランティア学生交流ダンスパーティー」

メンバー：沼田真奈(盛大4年), 杉本茜(盛大2年), 星野雄哉(盛大2年), 細川咲季(盛大2年)
菅田朱堇(不来方高校2年)

内容：全国の大学生を対象に、ダンスと雪遊びを通じた交流キャンプを企画した。ダンスは、初心者でも親しみやすい内容となるように指導方法を工夫し、事業後に行ったアンケート結果からも非常に満足度の高いキャンプとなった。参加者は男性12名、女性13名の計25名。

実施日：3月3日(木)～5日(土)

(4) TEAM プロモーションビデオ

メンバー：沼田真奈(盛大4年), 立花春香(盛大1年), 他テンパーク法人ボランティア多数

内容：岩手山青少年交流の家を知ってもらうためのPRビデオを作成。「つながり」をテーマに3つの動画作品を作成した。そのうちの一本は、テンパークまつりで来場者にむけて放映し、広報的役割を果たした。作成には、多数のボランティアが関わり、ボランティア同士の連携が深まった。

実施日：通年

6 成果とその普及

「岩手山ボランティア育成ビジョン」に基づく、新規の取組であったが、ボランティア同士が職員と有機的な連携を図り、ボランティアの「社会を生き抜く力」の向上に寄与する取組となった。最大の成果として、ボランティアの主体的な活躍の場の創出があげられる。これまでは、意欲的なボランティアが教育事業等のスタッフとして活動してきたが、事業の規模によって受入人数に制限があることが課題であった。今回の取組を通して、多くのボランティアが活動する機会を創出することができ、ボランティアの活動延べ人数は前年度466名に対して、1012名とおよそ2.5倍の活動機会を拡充することができた。

運営のポイントで挙げられたクラウドサービスの活用は、ボランティアとして活動する大学生・高校生のICT教育スキルの向上に寄与する可能性があり、現代社会に適応した先進的な取組になったといえる。

本事業は、平成28年度から始まる、国立青少年教育振興機構の第3期中期目標で述べられている、「ボランティアによる自主企画事業の実施」において、先行して実施した好事例として、他の教育施設へ向けたモデルプログラムとしての普及が期待できる。

7 今後の課題

本事業は、「岩手山ボランティア育成ビジョン」における「育成の起点」から「育成の継続」につなげるための取組であったが、ボランティア自身のスキルの向上や、集団としての能力向上には、きちんとした育成段階を経た上で実施する必要がある。特に、子どもと関わる基本的なスキルや、青少年の模範となる正しい生活習慣等は、本事業以外の各種教育事業において、正しく育成していく必要はある。平成27年度の取組は、社会的スキルの高い、各種教育事業への参加経験が豊富な大学4年生のボランティアが各プロジェクトチームを牽引したが、世代交代が予想される次年度以降においては、改めてボランティアとしての基礎基本を指導した上で、プロジェクトを進行していく必要があると考えられる。

国立岩手山青少年交流の家 ボランティアブラッシュアッププロジェクトの全体像

平成27年10月
作成 及川

